



POE BACKS

じょうかけいかれし
さとまる まみ



Jyoukakeikareshi

C o n t e n t s

0 0 4 オメガバースとは

0 0 9 第 1 話

0 3 7 第 2 話

0 6 9 第 3 話

0 9 1 第 4 話

1 1 5 第 5 話

1 3 9 第 6 話

1 6 9 浄化済彼氏

1 7 8 あとがき

オメガバースとは？

ボーイズ・ラブ

欧米で発祥したBLにおける特殊な設定です。もともとはSF作品のパロディ、いわゆる二次創作にちいいられていました。SF作品に登場する人狼（オオカミ男）の恋愛を描こうとした際に実際のオオカミの生態を参考にしたことで α 、 β 、 Ω の三つの存在の仕分けが登場したようです。その後は階級制度に男尊女卑や人種差別などの社会風刺的な要素が加わっていきます。オメガバースは描き手の解釈によって様々なアレンジが加えられ今では無数のバージョンが出回っています。最初の発案者が不明である事により、正しい設定という考え方は基本的にはありません。この自由度の高さがオメガバースの魅力の一つ。

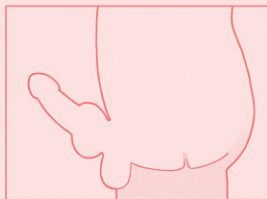
とはいえ、読み手にとっては各作者の世界観を一から確認して読み進めるというのは敷居が高く感じるものですね。そこでオメガバースをもっと気軽に多くの人に楽しんで貰おうと発足したのが[オメガバース・プロジェクト]です。BLに新たな驚きを、そして胸が高鳴る無限の可能性を目指して[オメガバース・プロジェクト]は独自の設定を組みました。本書における全ての作品はこの世界観をもとに構成されています。

※オメガバースの“バース”とは誕生という意味に誤解されがちだが、実際にはユニバース（宇宙）のバースからきており、日本においてはこの表現はパロディ作品におけるパラレルやif設定に該当する。

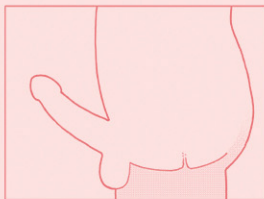
全員が妊娠できる世界

太古の昔、人類には女性と男性の二つの性がありました。しかし急激な人口の衰えを前に人は新たな進化を遂げます。男女という違いは形だけの名残を残して全ての人間が妊娠できるようになりました。男型には肛門から子宮に繋がる器官があり、女型は興奮するとクリトリスがペニス状に勃起して射精する事ができます。

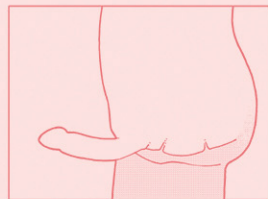
〈 α 男型〉



〈 β 、 Ω 男型〉



〈 α 、 β 、 Ω 女型〉



ペニスの根元に龟头球と呼ばれる器官を持つ。これは“ヒート”と呼ばれる突発的な発情を迎えた時のみ、射精時に瘤状に肥大化して相手の性器からペニスが抜けない役割を果たす。ヒート時の射精は20～30分続き、精液の量は約20ml（ β や Ω の平均が2ml）で受精率は100%。通常の状態でも精液は10mlと β や Ω よりも多い。

α 、 β 、 Ω のちがい

- ・男型は唯一“龟头球”を持っている
- ・“ヒート”という突発的な発情期がある
- ・ヒート中の射精は20～30分続く
- ・ヒート中の妊娠率は100%
- ・射精の際の精液の量が最も多い
- ・階級分化フェロモンを持っている
- ・発情期がない
- ・ Ω の発情期に対して、ムラムラはするが理性での制御が可能
- ・発情期がある
- ・発情期の周期は1ヶ月／1回、約7日間
- ・発情期以外での妊娠は極めて少ない
- ・性フェロモンを持っている

発情期とは？

〈オメガ〉



Ωの身体からはオメガホルモンから生成される性フェロモンが汗などの体液に混じって分泌されています。この性フェロモンの分泌はαやβにはありません。その為、この性フェロモンは通称"Ωフェロモン"と呼ばれています。



Ωは1ヶ月のうち3週間をかけて、大量のオメガホルモンを体内に蓄積します。発情期がやってくると、大量に蓄積したオメガホルモンから性フェロモンを生成して大放しします。このΩフェロモンの大放しは約7日間程度続きます。これは元々妊娠の確率が低いΩが高い生殖力を持つαを誘惑する為に発達した特性だと考えられています。

〈アルファ〉



Ωフェロモンに反応して"ヒート"という突発的な発情期を催します。一度ヒートに入ると理性が飛び、暴力的になってしまう傾向があります。

※初めての発情期がおとずれるのは一般的には12~18才です。(αのヒートも同様)

αとΩだけに起きる"番"のシステム

αとΩの発情期中のセックスでαがΩのうなじ付近を噛むとその二人は"番"^{つがい}になります。番になった場合、αには変化が起きませんがΩは発情期中は番となったαに限定したセックスしかできなくなります。他の人間とセックスをすると目眩、頭痛、吐き気に襲われます。原則として番は解消ができません。



〈αに噛まれるΩ〉



〈齒形〉

番になるために噛まれた場合、その齒形はずっと残ります。



〈首輪〉

望まない相手と番になってしまわないように、首輪で自衛するΩもいます。

魂の番

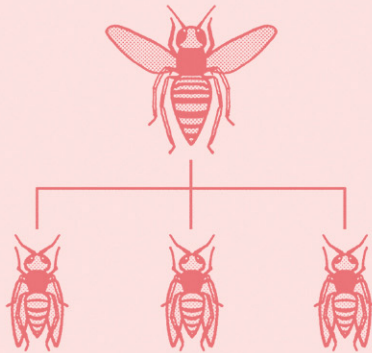
αとΩがお互いのフェロモンに(発情とは関係なく)、惹かれることがあります。

その相手とは一目見た瞬間に感じ合い、必ず相思相愛状態になります。

しかしこれはとても稀なケースであり、都市伝説ではないかと言われています。

番のメカニズム

α は発情期中に Ω の"うなじを噛む"という行為をトリガーとして、階級分化フェロモンを番となった Ω に発するようになります。結果として Ω は発情期中に番になった α としかセックスが受け付けられない身体になります。また、番のいる Ω は例え発情期を迎えても、自分のパートナーではない α のヒートを抑制することができます。このヒートを抑制する作用が"ヒート抑制剤"開発のキーとされていますが、この点はまだ未解明のままです。

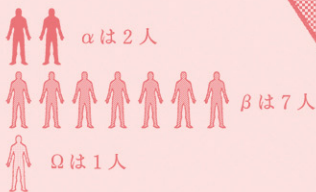


〈蜂〉

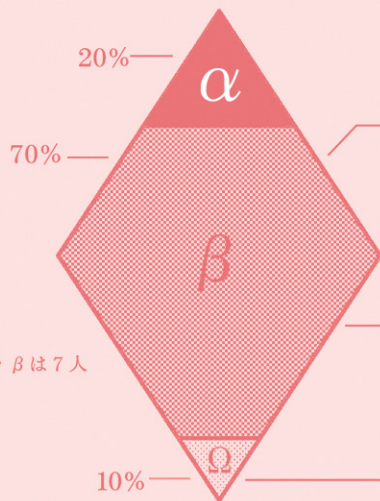
女王蜂は階級分化フェロモンによって自分以外の雌の卵巣の成熟を抑え、働き蜂として仕えさせている。

階級制度

〈10人いたら…〉



1クラス30人の場合、
 α は6人、 β は21人、
 Ω は3人です。



唯一、亀頭球を持つ男型がいて、 Ω に対しての生殖率が高い。その他の身体的優位性は精液の量と階級分化フェロモン以外には立証されていないものの、世間的には α はあらゆる面において β と Ω に勝ると考えられている。

人口が最も多く、基本的には α に使われる側であるが、近年は個人の努力や α との婚姻関係によって、 α と変わらない地位を築いている場合もある。

発情期があり、生殖率が低い事から α や β よりも劣る存在とみなされている。発情抑制剤が開発されるまでは、家庭に入り外での仕事はしないことが望まれていた。

α 、 β 、 Ω の生活

学校



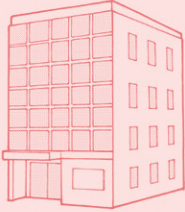
共学

" α クラス" という特進コースが存在します。これは β や Ω も能力次第では入ることが可能で参加は任意です。 α が β や Ω よりも優れているという考えから設置されたクラスで、通常よりも難易度の高い授業が行われています。

α 校

入学は α のみ可能です。 α 校はあるものの、 β のみ、 Ω のみという学校はありません。

仕事



< α >

社長や重要なポジションの人間は殆どの場合が α です。家族経営も非常に多く、 α 同士のコネクションがとても強いので、 α は出世しやすい社会です。

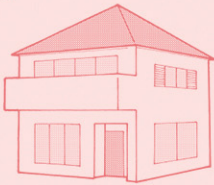
< β >

個人の能力によっては α と変わらないポストにいる例もありますが、基本的には α に雇用される側です。

< Ω >

発情期抑制剤の普及により、雇用が増えました。 Ω に対する偏見をなくす為、国からは Ω の雇用に対して助成金が出ます。

結婚



α 、 β 、 Ω はそれぞれ同種間での結婚をするのが通例です。特に α はエリート意識が高く、 α の血を汚さない・絶やさないことを重んじています。生まれてくる子供の確率は $\beta > \alpha > \Omega$ の順で遺伝する為、 α はなるべく α 同士との結婚を望みます。そうすることで特権階級はますます α に独占されるという背景もあります。その為、 β や Ω が α と結婚する場合は玉の輿に乗ったという感覚が一般的です。1960年頃から Ω の人権運動が盛んになった事で β や Ω 間、 α や Ω 間の結婚も増えてきてはいますが、それでもまだ異種間での結婚が普通とは言い難い現状です。

Ω が自分を守るために義務づけられていること

- ① Ω は中学校から学校側に自らが Ω であることの診断書を提出しなければならない。
- ② 雇用主にも Ω であることの診断書を提出しなければならない。
- ③ 発情期抑制剤の服用と、特効薬の常備。

発情期抑制剤とは？

1950年代に開発された Ω 専用の薬。 α ホルモンを主体とした成分で Ω ホルモンを抑制することで、性フェロモンの分泌を軽減させる働きをします。効き目には個人差があり、アレルギーやなかなか効かない体質の Ω もいる為、新薬の誕生が期待されています。

<ピル>



1日／1回、1粒を毎日服用。
副作用はないとされているが、個人差がある。



<特効薬>

発情期が起きてしまった場合に腕や足などに刺す。5分以内に発情は沈静化するが、副作用が強く、頭痛、吐き気、目眩などが起きる。学校、会社、駅など公共の施設には常備されている。

※どちらも個人が入手する場合には、必ず病院での処方が必要。

A red-toned illustration of a person's torso and arms. The person is holding a pair of glasses with both hands, positioned near their face. The drawing style is simple with bold outlines and soft shading. The entire image has a monochromatic red color scheme.

Jyoukakeikareshi

第 1 話

Jyoutakakeikareshi



